

## FD 研修会（部署間における学生データの連結から得られたデータの処理結果報告 2）報告

日 時：2023 年 7 月 25 日(火)14：50～15：30

講 師：ビジネス実務学科 藤元 宏一教授

場 所：H207 教室

題 名：部署間における学生データの連結から得られたデータの処理結果報告 2

参加者：教職員名（うち事務職員人含む）

(内容)

### 1.目的

昨年度行った 3 部署間データ連結によるデータ処理について、さらに項目を追加して処理した結果を示す。さらに、学習成果のアセスメントに関連して、今回のような FD 研修会を実施し意見を集めながら処理結果を整えていく考えである。

### 2.データ連結処理

データは、入試広報部から入試データ（2020 年度から 2022 年度入学）、教務部からは成績データ（2020 年度から 2022 年度入学）、就職進学支援部からは進路データ（2020 から 2021 年度入学）を得た。特に入試広報部には、面接点数、資格・特技点数、実技点数など詳細なデータの提供を追加して依頼した。なお教務部データについては、2020 年度から 2021 年度は卒業までの 2 年分、2022 年度は 1 年次のデータを得た。

連結処理は、昨年度行った方法で比較的スムーズに行うことができた。

### 3.処理結果報告

#### 1)高校時欠席数と GPA 値（2020～2022 年度入学）

昨年度と同様入学前の欠席数と入学後の GPA 値の間には、相関関係が認められなかった(図 1)。

#### 2)評定平均値と GPA 値（2020～2022 年度入学）

ビジネス実務学科に相関係数 0.5 の相関関係が認められた。幼児教育学科と美術学科も相関係数 0.5 に近い弱い相関関係が認められ、他の値より GPA 値への相関関係が最も強い傾向があることがわかった(図 2)。(美術実技等除く)

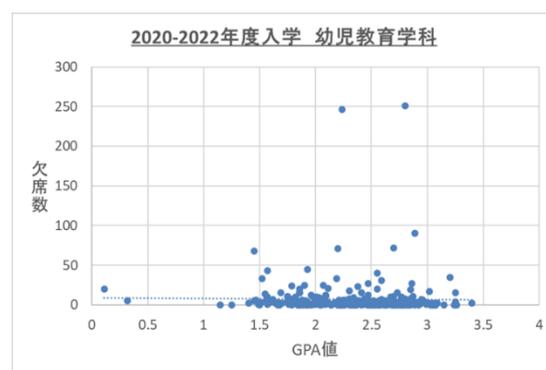


図 1 高校時欠席数と GPA 値



図 2 評定平均値と GPA 値

3)集計点数割合と GPA 値 (2020~2022 年度入学---2020 年度 AO 入試を除く)

3 学科とも相関係数 0.4 近くの弱い相関関係が認められた(図 3)。

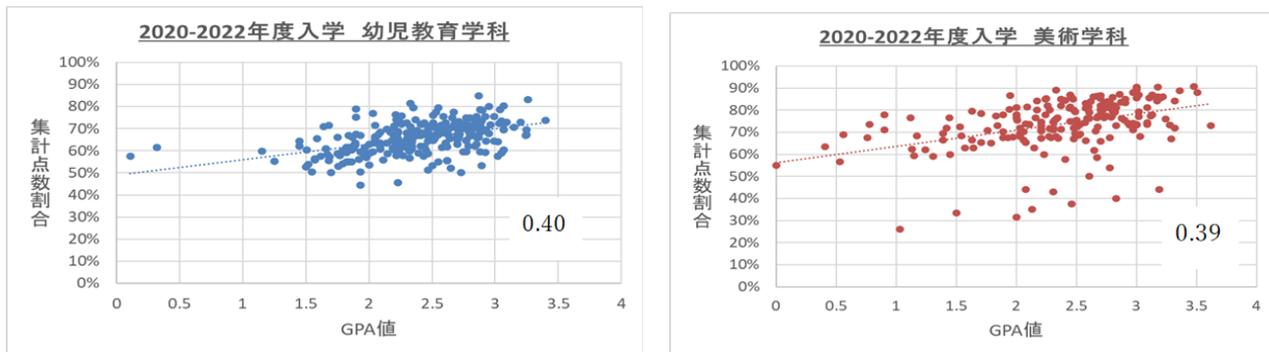


図 3 集計点数割合と GPA 値

4)面接点数割合と GPA 値 (2020~2022 年度入学---2020 年度 AO 入試を除く)

3 学科とも相関係数 0.3 前後の弱い相関関係が認められた。幼児教育学科は得点幅が比較的小さいことと、美術学科とビジネス実務学科の満点取得者が多いことがわかった(図 4)。

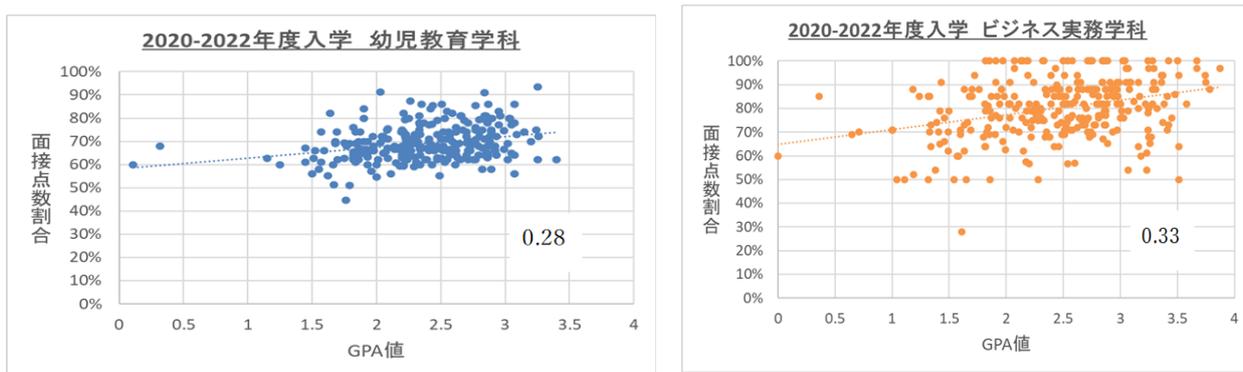


図 4 面接点数割合と GPA 値

5)資格・特技点数割合と GPA 値 (2020~2022 年度入学---2020 年度 AO 入試を除く)

3 学科とも相関係数 0.3 近くの弱い相関関係が認められた。4)同様に幼児教育学科は得点幅が比較的小さいことと、美術学科とビジネス実務学科の満点取得者が多いことがわかった(図 5)。

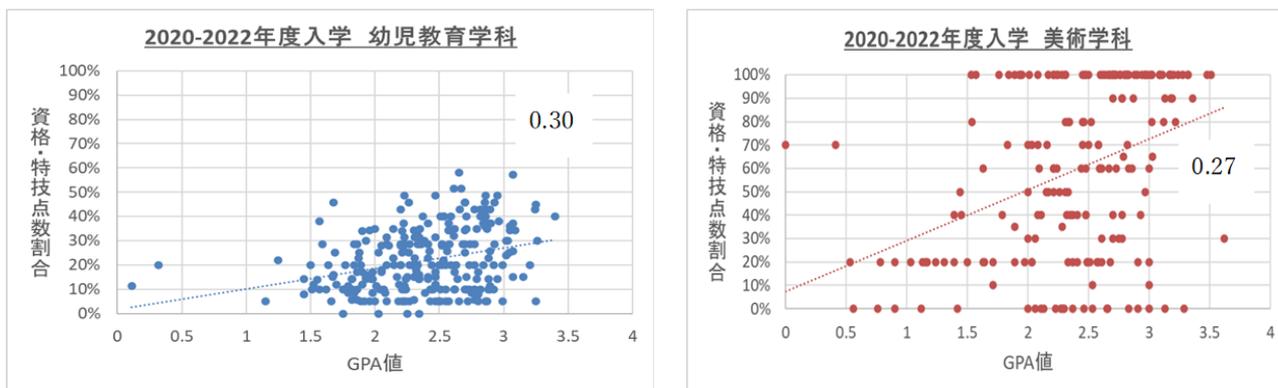


図 5 資格・特技点数割合と GPA 値

#### 6)実技点数割合と GPA 値 (2020～2022 年度入学)

美術学科の実技点数に相関係数 0.53 の相関関係が認められた(図 6)。



図 6 入試資格・特技点数割合と GPA 値

#### 7)学科別進路と各種値の平均値 (2020～2021 年度入学)

入学年度・学科別に進路ごとの各種値の平均値を一覧を提示し、特に際立った特徴のあるデータは確認できなかったことを説明した。特に近年の退学者は、成績不振だけが理由では無く、進路変更も大きな理由となっていることも説明した。

#### 8) 意見交換とまとめ

- ・瀬戸先生から GPA 値は出席割合も考慮して除外データを決めるといいとアドバイスがあった。
- ・百海先生から欠席の縦軸範囲が、学科ごとに異なると指摘があった。
- ・本山先生から、7)の各種値の平均値について、入試ごとに処理すればデータの特徴が出る可能性が高いと思われるため、入試種別に処理する依頼があった。
- ・今後さらに、小論文点数、筆記試験点数などにも同様の処理を行い、最終的な報告書を作成していくことにした。
- ・今後、事務システム更新によって部署のデータが一元化して管理されれば、このようなデータ処理もよりスムーズに行えることを提案した。